

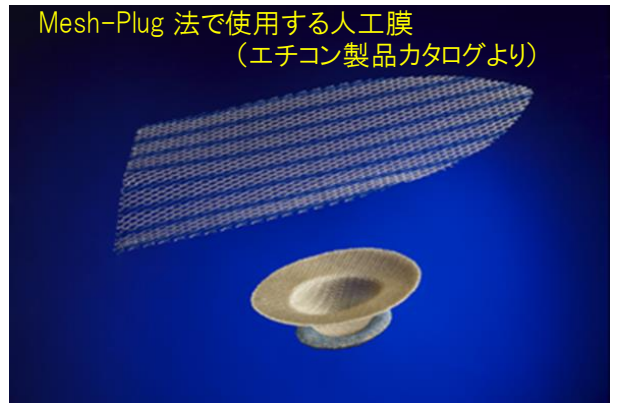
相澤病院 鼠径部ヘルニア治療のご案内

鼠径ヘルニア、大腿ヘルニア、閉鎖孔ヘルニアは、加齢などによる腹壁・骨盤筋層の脆弱化が原因ですので、今後の高齢化社会においては症例数の増加が予想されます。嵌頓して消化管壊死となってしまうと 1 週間以上の入院が必要になることもありますが、予定手術であれば日帰り～2泊 3 日の短期間の入院で手術が可能です。（※当科では鼠径部切開法で Mesh-Plug 法、Kugel 法を中心に手術を行っています。）

患者さんの年齢や身体状況、家庭状況に応じて入院期間のご相談をさせていただいています。大きな問題がなければ、90 代後半の症例まで手術経験がありますので、高齢というだけで治療を断念せずに一度ご相談いただければ幸いです。宜しく願い申し上げます。

| | | |
|--------|-------|-------|
| | 月曜 AM | 金曜 AM |
| ヘルニア外来 | 小田切 | 小田切 |

Mesh-Plug 法で使用する人工膜
(エチコン製品カタログより)



Kugel 法で使用する人工膜(Bard 製品カタログより)



治療実績（鼠径ヘルニア、大腿ヘルニア、閉鎖孔ヘルニア）

| | 予定手術 | 緊急手術 | 総手術 | 日帰り手術 | 日帰り手術率 |
|--------|------|------|-----|-------|--------|
| 2013 年 | 137 | 15 | 152 | 19 | 13.9 % |
| 2014 年 | 148 | 17 | 165 | 32 | 21.6 % |
| 2015 年 | 140 | 16 | 156 | 62 | 44.3 % |
| 2016 年 | 149 | 17 | 166 | 51 | 34.2 % |
| 2017 年 | 145 | 11 | 156 | 32 | 22.1 % |
| 2018 年 | 153 | 4 | 157 | 24 | 15.7 % |
| 2019 年 | 158 | 4 | 162 | 22 | 13.9 % |
| 2020 年 | 150 | 13 | 163 | 28 | 18.7 % |

相澤病院 外科センターセンター長
小田切 範晃